

学校法人 華蔵学園 新田塚幼稚園 園長 荒川さんインタビュー

① 新田塚幼稚園の教育目標である「つぶやく」を掲げた真相

Aさん:本日はよろしくお願いいたします。さっそくですが、以前新田塚幼稚園のホームページを見させていただき、そこには「基本的生活習慣」「つぶやく」「自己肯定感を育てる」の3つの教育目標が掲げられていました。その中でも特に2つ目である「つぶやく」が最も印象的でした。私は幼いころからひどい言葉を吐くことや愚痴をこぼすことは肯定されるべきことではないという教育を受けてきました。しかし、荒川さんはそれを「心の叫び」だと考え、肯定的に捉えている。そこにはどのようなワケがあるのでしょうか？

荒川さん:なるほど。あのね、人生って、楽しいことが50%あったら、辛いことも50%あると思わない？人生においては、悲しいこと、嫌なこと、逃げ出したいこととかがいっぱいあると思うんですよ。そういう時、泣き言を言っちゃいけないみたいな文化があるけど、逆に言ってみてほしいと私は思うんです。

Aさん:それはどうしてですか？

荒川さん:例えば、運動会の練習を子どもたちと一緒にいるとき、外が暑いと子供たちが「やりたくない」や「あつい」などのような反応を見せる。その時、私が「運動会でどんな姿を見せたい？」という問いを投げかけると、「リレー速く走りたい」や「お父さんお母さんにかっこいいと思ってほしい」などという意見が出てくるんです。そこで「そのためにはちょっと頑張ってみん？」という言葉がけをすると、主体的に自分で考えて自分で目標を決めて行動を取るようになることを目にしてきたんです。この例みたいに、大人も子どもも無理やり行動させるのではなく、納得できた後に行動すると主体性も集中力も上がると思うんです。



Aさん:なるほど

荒川さん:子どもたちと接していると、みんな遠慮無しに「いやや」「やりたくない」を全部言ってくれて、それに対して「わかるよわかるよ」と一旦共感する。でもその後「みんなはどのような姿になりたい?」や「先生みんなにこうなってほしい」みたいな声掛けを毎日コツコツやっていると、子どもたちが仏教的な考え方で言う「命を輝かせて」主体的に集中して行動できるようになる。これは子どもたちだけではなく職員や保護者の方にも当てはまることで、命は子どもも職員も保護者の方も皆平等。だから、どのようなことでも言葉にできる環境を作り、それに対して一旦共感をして、その後前進していくことが命を輝かせて、よりよい生活を送るためには大切だと思うんです。

② 子どもへの「言葉がけ」に対する重要性

Aさん:めちゃめちゃ深いですね。これは幼稚園だけではなく、社会で生きていくうえで必ず必要になってくる能力な気がします。相手に寄り添った言葉がけが、いかに大切であるかということに気づかされます。「言葉がけ」については、教育目標の3つ目である「自己肯定感を育てる」にも通じる部分があると思うのですが。

荒川さん:そうですね。WHOが行った子どもの幸福度ランキングで日本は38か国中20位と自己肯定感が高い国とは言えません。せっかくご縁があってお父さんお母さんのもとに生まれてきたんだから、子どもたち全員が、誰かの役に立ってるって思えるようになって欲しい。自己肯定感が高ければ、他の人のことも気にかけて優しい心でいられる。だから小さいころから自己肯定感を持てるような教育をしたいと思うんです。

Aさん:そうなんですね。日本の子どもたちが自己肯定感が低いということは薄々感じてはいましたが、データで表されると改めて僕も今後解決策を考えていかなければいけないと感じます。荒川さんは子どもたちの自己肯定感を上げるために心掛けていることはありますか?

③ 荒川さんが子どもたちの自己肯定感を上げるために心がけていること

荒川さん:やっぱりこれも言葉がけですね。子どもたちがささいなことでも頑張った時や気配りをできた時などに「頑張ってる姿見れて先生嬉しいよ!」や「それいいね!」などのような言葉がけをするように私も職員も心掛けるようにしています。理想は海外でお互いの服やスタイルを褒め合うくらいの感じが理想ですね。



Aさん:ありがとうございます。では、教育目標の1つ目である「基本的生活習慣」についても荒川さんの想いを教えていただきたいです。

④ 教育目標である「基本的生活習慣」に対する荒川さんの想い

荒川さん:「基本的生活習慣」っていう教育目標には、子どもたちに将来の選択肢の幅を狭めてほしくないという想いがあります。大人になって基本的な生活習慣が身についていないと、自然と様々な機会を失ってしまうと思うんです。例えば、挨拶ができない大人になってしまうと、その人の印象は悪くなり、仕事などに影響しかねない。子どもたちにはこんなことになってほしくないと思心から思うので、小さいころから習慣化し、しないと逆に不快と思えるほどになってほしいと思います。

Aさん:子どもたちが卒園して社会に出た後のことまでしっかりと考えられていて、荒川さんがいかに子どもたちを第1に考えられていらっしゃるかを身に染みて感じることができました。最後に、私の個人的な質問なんですけど、荒川さんが若い人たちにこれをしていただいた方がいいみたいなアドバイスってありますか？ぜひ僕自身参考にさせていただきたくて(笑)

⑤ 若いうちにやっておいたほうが良いこと

荒川さん:なるほど、そうですね。でもやっぱり嫌なことや辛いことから逃げないことは大切だと思います。若い時って、辛いことの小さい山がたくさんやってくると思うんです。そういう小さい山が来た時、どうしても見なかったことにして逃げ出したっていう気持ちはあると思います。でも逃げずにしっかりと向き合ってほしい。なぜなら、毎回小さい山から逃げていると、いざ大きい山が来た時に絶対に乗り越えられなくなってしまうと思うからです。人生どのタイミングで辛い大きい山が来るか分からない。でもいざという時に備えて、日頃から小さい山を乗り越える練習をしている

と、大きい山が来た時何とか乗り越えることができるようになると思います。だから、若い時は日頃からささいな嫌なことや辛いことにはめげずに立ち向かってほしいと思います。

Aさん:いや、とても深い話を聞かせていただきました。僕自身最近嫌なことや辛いことがしばしばあって、そういう時どうしても見なかったことにして無かったことにしてきてしまっていました。でもこのままだと辛い大きい山がいざ来た時に乗り越えることができなくなってしまうなど実感させられました。これからはしっかり小さい山とも向き合い、大きい山が来た時に折れることなく乗り越えることができるよう準備していきたいと思います。本当に心に響く言葉を最後にありがとうございました！

荒川さん:こちらこそありがとうございました。

